昭和36年1月16日第3種郵便物認可　昭和54年12月1日　第254号（毎月1回発行1部30円）

NO 254

全仏

12/54

写真はWFB本部を訪問した大谷会長をはさんで、ブーン会長（左）とサンヤ副会長（右）
＝関係記事四、五面＝

盲点

「せいどうかい」って何ですか、ともう一人前の社会人として活躍している人から聞かれたことがある。おや、こんな人まで知らないのか、と唖然とさせられた。

思わぬところに盲点があるものである。

釈尊はお悟りを得られた後、お悟りの内容を人々に伝えるべきかどうか、悩まれたと伝えられている。大変悩んだ末、長い説法の生活へ入られたという。そこには、衆生の幸せを願う抑え切れぬ心をしっかりとくるむ冷静な緻密な頭脳が働いていたのに違いない。

対機説法、いつも気をつけているのだが、時たま空まわりしてしまい、思わぬ所に盲点が生じていることに気がつかない。

（自戒）

財団法人　全日本仏教会

常務理事会開かる

事業・機構など見直し示唆

全仏常務理事会は、十一月十二日午後一時三十分より、東京グランドホテルにおいて、事業計画等の議案について審議された。

馬場庶務部長の進行により、町田理事長挨拶のあと、議事録署名委員に山本杉（全日仏婦）、四宮正音（孝道教団）の両氏を選出し議事に入った。

議案第一号「WFB大会中間報告以降の決算について」

事務局より説明し承認。

議案第二号「昭和五十五年度事業計画ならびに歳入歳出予算について」

事業計画など審議する常務理事会

事業、機構の見直しを含みとして承認

議案第三号「次期会長、副会長、役員について」

機構改革、時事問題対策を含めて特別委員会を設置し、検討の上で次期の理事会、評議員会にはかる。

議案第四号「真宗越前四派連合について」

事務局一任で了承。

議案第五号「世界宗教者倫理会議について」

事務局一任で了承。

報告事項「理事定数の改正について」

定数の問題点について事務局より説明

各宗派より、よき案を知らせる。

（出席者―順不敬略）町田宗夫、松村寿顕、野村宗春（代）、林亮海、桜井大乗、別所弘因（代）、四宮正音、豊原大潤（代）、阿部野竜正（代）、嶺藤亮、後藤純一（代）、山本杉

―宗務総長会―

常務理事会に先立って、宗務総長会が同所にて十一時より開催された。

カンボジア難民救済

全日仏青が募金運動

全日本仏教青年会（永倉嘉文理事長）では、十一月十二日の臨時理事会において、カンボジア難民救済募金を行うことを決議、早速、十五、二十日の両日「カンボジア難民救済プロジェクト会議」を芝・増上寺において開催、具体的活動に乗り出した。

全日本仏教会は、カンボジアの国民生活が深刻化の一途をたどっている時でもあり、この活動への協力を行うこととなった。さいわい全日本仏教婦人連盟、日本仏教保育協会も協賛の輪に加わったこともあって、次第に大きな反響を生み出してきた。

また全日本仏教青年会は、近くタイ国本部において開催予定の世界仏教青年連盟（WFBY）の執行委員会に、代表派遣の予定である。この会議ではカンボジア難民救済も議題の一つにあがっている。

全国の寺院住職と檀信徒の協力を是非ともお願いしたいものである。

「カンボジア難民救済募金　趣意書」

カンボジアの民族は、いまや存亡の危機に直面しています。

うち続く戦火により、田畑を焼かれ、食べるものもほとんどなく、疫病に犯されながら、ただ逃げまどうばかりのカンボジア民族の姿は、わたくしどもの心を痛めずにはおきません。

国連の発表によると「このまま放置すれば数年前、約七八〇万といわれた人口は、やがて半減するかも知れない」といわれ、この惨状の中にあって、いまこうしているうちにも人々の尊い生命が飢えに苦しみながら、次々と失われています。

この窮状を救うため、仏教徒としての宗教的立場と人道的見地により、緊急に救済活動に邁進することになりました。

さいわい国際連合児童基金による救援ルートがこのほどようやくひらかれましたので、財団法人日本ユニセフ協会と手を携え、"SOSカンボジア緊急募金"に微力をささげてまいります。

またタイに置かれている世界仏教徒連盟（WFB）本部を通じ、可能な限りの実状把握と救済活動を進めていく所存でございます。

なにとぞ、関係団体各位と皆さまがたの温かいご理解とご援助をお願い申しあげます。

全日本仏教青年会

おねがい

全仏文化部では機関紙「全仏」の創刊号、二号を探しております。昭和二十九年の十月か十一月の発行と思われますので（当時は全仏通信）ご協力をお願い申し上げます。

世界の仏教 ⑤

ネパールの仏教

松濤 弘道

インドの北に位置する山岳国ネパールはヒマラヤ山脈を背にし、長い間、鎖国政策をとっていたので一九五一年まではその実情が諸外国に知られない秘境であったが、釈迦生誕の地ルンビニーのあるところから、われわれにとって古くからなじみの深い国である。かつては陸路でインドから長い嶮岨な山道を幾重にも登っていかなければならなかったが、現在では航空路が開け、バンコクやカルカッタなどからの直行便もあり、容易にその首都カトマンズに降り立つことができる。

ネパールの人口約千百万人の人種構成は多種多様で、カトマンズ盆地に多く住むネワール族、中部山岳地帯に住むゲルン・マガール族、われわれとよく似た東部山岳民族であるライ・リンブー・スワール族、そしてヒマラヤのタイガーと呼ばれるシェルパ族、その他、タカリー・ターマンなどの山地民族、そしてアーリアン系のブラーマン・チエトリ、その他インド平原のベンガル・タル族など、数えあげたらきりがない。一般に山岳住民はモンゴリア系で、南に下るにつれてインド的なアーリア系が多くなる。

古くは、ネパールは西暦前四世紀にインドから入ったヒンズー教徒のリッチャビ王家によって興され、当時はマガダ国の属国で、マーナ・デヴァ王によってはじめて独立したと伝えられている。その後、長い間、マルラ王朝と各地の土侯の分立時代が続いたが、十八世紀に入ってシャハ王朝が国内を統一し、比較的平穏な時代を送っていた。ところが、十九世紀に入って約百年間、ラナ家の独裁専制政治によって鎖国と仏教弾圧がなされ、暗黒時代を迎えた。一九五一年に再び王政復古してシャハ王朝が復活し、現在の国王ビレンドラ・ビルビクラム・シャハ・デヴァはシャハ王朝十代目の王であり、わが国にも留学したことのある親日家である。

仏教がはじめてネパールに伝えられたのはインドの阿育王が西暦前三百年頃に当地に伝道師を派遣したところまでさかのぼることができるという。当時、伝道師を引率した阿育王の次女(?)チャルマティ王女がカトマンズに赴き、ネパールのデーヴァパラ王子と結婚し、今日見られるデーヴァパタンにあるチャルマティ僧院を建立したと伝えられている。当時の仏教は小乗(上座部)仏教であったが、後にカニシカ王の時代に馬鳴を中心にカシミールで開かれた第四回結集の影響を受けて大乗仏教が伝わった。

七世紀から十世紀にかけてインドのナーランダやヴィクラムシルなどの精舎からチベットに向う多くのラマ僧が立寄り、密教的色彩を濃くし、その後インドの仏教は衰微の一途をたどったが、ネパールではカトマンズ盆地に定住するネワール族がその遺鉢を継いで十三世紀から十八世紀までにラマ仏教を中心とする黄金時代を迎えた。現在みられるネパール文化と呼ばれる美術・工芸・建築はこのネワール文化のことを指している。

二十世紀に入ってからも、ニスタナンダ長老が大乗仏典である普曜経をネパール語に翻訳普及させたり、ダルマディチャ長老が小乗(上座部)仏教をセイロンから伝え、月刊誌「仏法とネパール」を発刊し、仏教の興隆に努力したが、ラナ家の専制時代になってからは多くの仏教僧が故国を追われ、多くの仏塔、仏具が破壊されるなどの弾圧にあい、一般仏教徒は迷信的なラマ教の因襲を継承するにとどまっていた。

しかし、一九五一年のラナ家の崩壊により、ネパールは新しい政治体制をしいて信教の自由を認め、一九四四年にインドのクシナガラでチャンドラマニ・マハー・スタヴィラ長老によって設立されたダルモダヤ・サッバ仏教会がネパール国内での活動を許されるようになったので、一九五二年にその本部をカトマンズに移し、仏教再興運動を大々的に展開している。現在、その中心人物はアムリタナンダ師で、国王の親交を得、一九五六年十一月には第四回世界仏教徒会議を主催し、世界三十六カ国から五百余名の参加者を招いた。その他、この協会は各種仏典のネパール語翻訳事業や教育・福祉に力を入れ、最近では国家事業でもあるルンビニー園の整備に奔走している。

また、山岳地帯には約五千のゴンパ(僧院)があり、二千年の長い伝統を守ってそれぞれの僧院で十人から三千人のラマ僧が修行しているといわれる。最近、ヘランブにあるバガン僧院のラマ・チェチュ・クショ師によって全ネパール・ヒマ教団が組織化されたという。

このように、ネパール仏教はその長い歴史の間に幾多の紆余曲折を経て、小乗(上座部)、大乗、ラマ仏教の洗礼を受け、ヒンズー教ともかかわりを持つ一種独特な混合仏教であり、民衆の間に深く根を下しているが、国教的存在であるヒンズー教とのかね合いもあり、今後、どの程度、独自の教団として発展するか予断を許さぬ情況にある。

昭和54年12月1日
全仏
第3種郵便物認可

日・タイ仏教親善訪問団

ＷＦＢ本部へ日本大会の答礼

【写真はワットパグナム寺院の歓迎アーチと同院へ入る一行】

昨年の秋、東京・京都を会場に第十二回世界仏教徒会議日本大会が盛況裡に開催された。この大会の一周年を記念して仏教徒訪問団（日・タイ仏教交流の翼）が、十月二十二日より二十六日までタイ国バンコク市の世界仏教徒連盟本部（ＷＦＢ）などに派遣され、仏教親善を深めた。特に全仏・大谷光真会長（浄土真宗本願寺派門主）も同行され、ＷＦＢ本部では日本大会の答礼を行なった。またワット・パグナムでの大歓迎をはじめ、一行はタイ国仏教徒の心からの歓迎をうけ実りあるタイ国訪問であった。

仏教徒の友好深める

プーン会長に記念品

十月二十二日タイ国仏教訪問団一行四十七名は、全仏の安藤次長、磯山部長や長岡市仏の中村会長等の見送りをうけ元気に出発。香港を経由して機体がゆっくり高度を下げはじめると、眼下に緑濃い大地と水田風景が広がる。

バンコク郊外のドンムアン空港に到着すると、そこはまさに南国特有の風情が展開され、強烈な陽をあびる。小谷ＷＦＢ事務局次長（全仏派遣タイ駐在員）の出迎えをうけて一路バンコク市内へ。幾多の日本仏教徒がお世話になり、修行に便宜を計っていただいた小谷氏に、今回もご面倒をかけバンコク滞在中の手配を行なってもらった。

ハイヤット・ラマホテルに到着すると玄関には、昨年の大会に来日されたＷＦＢ本部のプラサート事務総長やマリカ次長をはじめ十数人が「サワディー」（こんにちわ）と出迎え、全仏の安本局長、鎌田国際部長と固い握手、有延良道副団長に本部より南国のフルーツが籠一杯に贈られ、団員一同も嬉しいタイ到着であった。

二十三日は、いよいよパゴダ（尖塔）とクロン（運河）の都といわれるバンコク市内の参拝と観光だ。三十度という暑さであったが、早朝はまず水上マーケットへ船で出発。チャオプラヤ川の赤茶けた水面を猛スピードで走るが、爽快というより恐威という感じで、水しぶきが顔をうつ。やがて運河に入ると両岸は熱帯樹が生い茂り、水上生活者の家並が続く。クロンの水で洗たくをしているかと思えば歯をみがくもの、食器を洗うもの、水浴する子供たちと、まさにクロンが生活のすべてといえる。また果物や野菜、日用品などを満載した小舟が無数に集まり市場をなし独特のにぎわいをみせる光景であった。

そのまま運河づたいにワット・パグナム寺院へ。境内はタイ、日本両国旗がぐるりと囲み、訪問団歓迎アーチなどで出迎え、その歓迎ぶりとお寺の大きさに驚ろかされる。本堂にて一読のあと集会場二階にて住職と懇談、ＷＦＢ日本大会の思い出やタイ仏教の情況を話した。住職より一人一人に記念品をいただいたあと一階にて施食供養があり、なかなか見ることのできないことだけに参加者の印象も強いようだ。施食供養のあと一行も昼食を同寺でいただいたが、日本より二名の僧侶が修行しており我々の世話をしてくれた。

また船にてワット・アルン（暁の寺）へ。暁の空を背にするとすばらしいといわれるが、近くへ行くと修理中のためか大きく高い塔という感じであった。やはり遠くから眺める方が美しいようだ。

つづいてバスにてワット・ポー（ねはん仏寺院）へ。暑い陽ざしに無数のパゴダがキラキラ輝く。ねはん像は全長五十メートルあまりあり、全身金箔で覆われ実にみごとであった。また参詣も多く熱

心に礼拝していた。

次に参拝したのがワット・トライミット（黄金仏寺）で、黄金に輝く仏像のまぶしさはすばらしいもので、数年前までは石像と思われていたという話しとともに印象深いものであった。

夜は南国らしい香辛料のピリピリしたタイ料理を楽しみながら、タイダンスを鑑賞した。

二十四日は、まずタイ建築の粋を集めたといわれる王宮へ。チャクリ宮殿、ドウシットホール、アマリンホールなどの宮殿群は豪華で色彩も鮮やかである。この敷地内にワット・プラケオ（エメラルド寺院）があり、タイでは最も格式の高い寺院で、黄金のパゴダがそびえ荘厳であった。

バスはバンコク市を北へむかう。高速道でドンムアン空港を越え、広々とした田園風景の中を古都アユタヤへ。山田長政と日本人町の遺跡があることでしられている。強烈な日ざしの中に、おびただしい数の寺院廃墟群がみえる。赤く破壊されたレンガの遺跡のそばで、裸の子供たちが金をせがみ、貧しさの一面もみせられる。

日本人町の遺跡はチャオプラヤ川のほとりの草深いところにあるが、まったく何もないといえる。このあとワット・パナムチューンへ参拝したが、何か異変があると涙を流す仏像として有名で、ふしめがちの眼が印象的であった。帰路バンパイン離宮をみてホテルへ。

夜は「新博多」という日本料理屋にて会食。この日到着された大谷会長も同席され、鎌田部長の司会で旅行中に誕生日の人、最年長の人などに賞品が渡され、また歌ありかくし芸ありの賑やかな宴会となった。

二十五日は今回の旅行の目的であるWFB本部訪問である。本部は静かな住宅街の一角にあり、ブーン会長、サンヤ副会長等の出迎えをうける。二階礼拝所にてタイ仏教会、日本側とともに読経のあと本部を代表してサンヤ副会長が「日本大会ではお世話になりました。より一層本部にご支援をいただき、またタイ国をよくみて理解していただきたい」と歓迎の挨拶、つづいて大谷会長が「タイ国を訪問でき、このような大歓迎をうけ大変嬉しいです。今後ともお互いに交流を続けましょう」と答礼の挨拶を行なった。

大谷会長よりブーン会長、サンヤ副会長に記念品を贈り、また安本局長より事務局員にも贈られた。本部、タイ仏教会タイ仏教青年会、ワット・サンカラヤーニよりそれぞれ仏像などが訪問団に贈呈された。タイ観光映画を鑑賞したあと、日本より持参した日本大会記録フィルムを上映すると、ブーン会長はじめ本部職員が場面に登場するたびに拍手がやまず笑い声がやまなかった。

昼食はタイ古典音楽がかなでられる中で自由に懇談しながら行なわれ、大会のとき来日した本部HQの人々の丁重な接待は、言葉は通じなくとも心暖まるものであった。

鎌田国際部長談「再三WFB本部を訪問しているが、今度のような歓迎ぶりはかつてなかったことだ。大谷会長がタイ国を訪問するということでタイ仏教会あげての歓迎であり、またブーン会長もお元気の様子で大変よかった」

本部訪問のあと予定外のワット・ボウォラニュエーサ（最高の所の意）を本部の配慮で参拝することとなった。この寺は皇室関係者の修行するところで、日本人としてはじめて参拝を許された。住職は大谷会長等と親しく歓談、また一行の質問にも丁重に答えてくれるなど、他の旅行では味わえない参拝であった。

最後はワット・ベンチャマボピットで屋根や窓以外はすべて大理石でできている。別名大理石寺院といわれ大変美しい寺院であり、裏手には各地から集められた仏像が並んで博物館のようであった。

夜は大谷会長による招宴がラマホテルで催され、WFB本部役員と訪問団代表が出席し和やかに懇談がなされた。

二十六日は、早朝ドンムアン空港へむかう。それぞれ大きな荷物となったが、それ以上にタイ国仏教徒との友好を深め帰国の途に……。わずか四泊五日であったが小乗仏教の一端を知ることができるなど有意義な訪問であった。

タイ訪問雑記帳

▼ドンムアン空港に到着してすぐ、ロビーのソファーに腰かけている僧に近ずいたAさんが注意された。戒律の厳しいタイでは修行僧の衣に女性が触れることは許されない。

▼アユタヤで昼食に入ったレストランはのどかでよかった。しかし天井に無数のヤモリが這っているのには、さすがのBさんも食事が咽を通らなかった。

▼水上マーケットへ船で行く途中、ガバッと船べりにつかまる子供「テンバーツ」といっていっこうに離れない。Cさんがお金を渡すと、ザブンと水中へ。とにかく驚ろいた。

▼バンコクはパゴダとクロンの都といわれる。我々訪問団のつけた名称は犬と猫と寺院の町。犬や猫が多かった。

▼バスの乗り降りのたびに悩まされるのが物売りの少年たち。「ジェンエン、ジェンエン（千円）」といって離れずについてまわる。とにかくどこへ行っても「ジェンエン」の声には閉口した。

タイ日本墓地保存に尽力の小谷氏に金盃

世界仏教徒連盟本部（バンコク市）の事務次長として、昭和四十四年以来本部で活躍している小谷亀太郎氏（パシフィック・オリエント会社社長）は、本年、長く日本人墓地保存に尽力された貢献により、バンコクの日本大使館において園田外務大臣より表彰され金盃を受けた。なお、小谷氏にはタイ国を訪れる日本仏教徒の多くがお世話になっている。

WFB大会寄金一覧

（下）

【新潟県仏教会扱】
九十六万百四十円　新潟県仏教会
【山梨県仏教会扱】
八十万円　山梨県仏教会
【石川県仏教会扱】
二十五万円　石川県仏教会
【福井県仏教会扱】
百十万二百五十円　福井県仏教会
【長野県仏教会扱】
六十四万五千円　長野県仏教会
【岐阜県仏教会扱】
百二十万円　岐阜県仏教会
【静岡県仏教会扱】
十万円　天林寺、方広寺、可睡済
十九万七千二百円　清水市仏教会
十八万六千円　田方郡仏教会
十七万四千九百円　沼津市仏教会
十六万八千円　藤枝志太仏教会
十五万四千円　榛原郡仏教会
十四万九千六百円　小笠郡仏教会
十二万四千九百円　富士市仏教会
十二万四百円　掛川市仏教会
九万五千二百円　焼津市仏教会
八万五千百円　磐田南仏教会
八万四千四百円　三島市仏教会
七万六千二百円　浜北市仏教会
七万四千七百円　周智郡仏教会
七万三千六百円　磐田市仏教会
七万三千四百円　引佐郡仏教会、島田市仏教会
七万一千七百円　袋井市仏教会
六万七千四百円　磐田北仏教会
五万七千二百円　庵原郡仏教会
五万四千二百円　駿東郡仏教会
六万一千七百円　伊東市仏教会
五万一千三百円　西伊豆仏教会
四万八千四百円　湖西市仏教会
三万九千六百円　熱海市仏教会
三万六千七百円　富士宮市仏教会
三万三千六百円　富士北仏教会
三万三百円　浜名郡仏教会
二万七千八百円　御殿場市仏教会
二万四百円　裾野市仏教会
一万円　静岡県仏教会浜松支部一同
【愛知県仏教会扱】
百五十万円
【三重県仏教会扱】
百八十万円
二十万円　専修寺
【滋賀県仏教会扱】
七十二万円
十万円　園城寺、石山寺、真宗木辺派本山錦織寺
五万円　錦織寺木辺宣慈、円満院
【大阪府仏教会扱】
百万円　念法真教金剛寺、国分寺
七十万円　津村別院
五十万円　犬鳴山七宝滝寺、茨木弁天冥応寺
三十万円　難波別院、一心寺、大念仏寺
二十万円　水間寺、成田山明王院、滝谷山明王寺、清風寺、山中大仏堂
十万円　四天王寺、鶴満寺、天野山金剛寺、長栄寺
五万円　太融寺
三万円　妙国寺、勝尾寺
一万円　三和
三十五万円　天王寺区仏教会
二十五万八千円　堺市仏教会
十九万円　八尾市仏教会
十四万円　東大阪西仏教会
十三万円　南河東部仏教会
十二万円　岸和田市仏教会、生野区仏教会、東住吉区仏教会
十二万四千円　南区仏教会
十一万四千円　南河北部仏教会
十一万円　豊中市仏教会、貝塚市仏教会
十万円　守口市仏教会、北区仏教会
九万円　松原市仏教会、能勢町仏教会、枚方市仏教会、東大阪中仏教会、東淀川区仏教会、淀川区仏教会
八万円　池田市仏教会、和泉市仏教会
八万二千円　阿倍野区仏教会
七万四千円　住吉区仏教会、西成区仏教会
七万円　門真市仏教会、大東市仏教会、泉佐野市仏教会、泉南市仏教会
六万円　平野区仏教会、福島区仏教会
五万八千円　柏原市仏教会
五万円　摂津仏教会、堺東仏教会、津田仏教会、寝屋川市仏教会、旭区仏教会、東成区仏教会、東大阪東仏教会、大正区仏教会、浪速区、西区仏教会
四万円　豊川仏教会、堺南仏教会、泉大津市仏教会、河内長野市仏教会、交野市仏教会、都島区仏教会、此花区仏教会、岬町仏教会、大淀区仏教会、西淀川区仏教会
三万八千円　阪南町仏教会
三万円　箕面市仏教会、豊能町仏教会、泉北仏教会、南河西部仏教会、港区仏教会、住之江区仏教会
二万六千円　熊取町仏教会
一万円　田尻町仏教会
【京都府仏教会扱】
二百万円　真言宗各山会
百万円　臨済宗妙心寺派本山妙心寺
五十万円　北区鹿苑寺
三十万円　平等院
二十五万円　西山浄土宗総本山光明寺
二十万円　妙法院、仏光寺、念仏寺
十五万円　禅林寺
十万円　祇王寺、鞍馬寺、詩仙堂、聖護院、清水寺、大雲院、知恩院門跡、誓願寺、高山寺、寂光院
五万円　大覚寺、長楽寺、清涼寺、養源院、青蓮院、曼殊院、千本釈迦堂、鹿山寺、不思議不動院

二万円　勝円寺、広隆寺、金地院、壬生寺

一万四千円　本能寺

一万円　実相院、鹿王院、善光寺、岡崎別院、成相寺、正覚寺、二尊院、退蔵院、勝持寺、養福寺、来光寺、大金竜院、長安寺、妙経寺、専称寺、妙晃寺

七千六百八十一円　和泉寺

五千円　阿弥陀寺、妙見寺、善福寺、霊山興正寺別院、成就院、法輪寺、宗運寺、文覚寺、金性寺、増長院、新宮寺

四千円　宝泉寺、不思議不動院、専称寺、常林寺、泰平寺

三千円　徳善寺、持宝寺、月光寺、西遊寺、妙順寺、豊光寺、智源寺、普門院、妙泉寺、常教寺、玉雲寺、字津木寺、浄福寺

二千円　金光院、三宝寺、妙泉寺、如来寺、満福寺、光明院、正運寺、成円寺、誓弘寺、休務寺、専徳寺、法雲寺、行願寺、善導寺、矢田寺、天性寺、蓮光院、来迎寺、神泉苑、二尊円導教会所、教信寺、中院、新徳寺、善想寺、教宣寺、成等院、弘誓寺、竹林寺、西王寺、真徳寺、栄正寺、清蓮寺、正住寺、法華寺、重長寺、光隆寺、慈雲寺、浄真寺、善久寺、正因寺、善永寺、正行寺、常光庵、東光寺、閑唱寺、梅林寺、水薬師寺、安養寺、聖光寺、透玄寺、浄教寺、春長寺、本光院、是住院、信養院、南昌院、徳正寺、勝円寺、空也寺、永養寺、浄国寺、乗願寺、長香寺、本覚寺、道知院、上徳寺、徳林院、極楽寺、新善光寺、金光寺、白毫寺、西念寺、浄雲院、宗仙寺、延寿寺、蓮光寺、長講堂、荘厳寺、福田寺、万年寺、竹林院等光寺、西蓮寺、朱雀坊、真導寺、正覚寺、安阿弥寺、稽首院、高源院、光徳寺、勝定院、善光寺、浄正寺、勝明寺権現寺、長円寺、良立院、中堂寺、西照寺、良故寺、善徳寺、未慶寺、専求寺、勝光寺、玉樹寺、長国寺、法蓮寺、清聚院、欽仰寺、西岸寺、樹昌院、大統院、両足院、清住院、久昌院、禅居庵、六道珍皇寺、興雲庵、西来院、常光院、大中院、正伝永源院、霊源院、最勝金剛院、恵福寺、仏光院、上善寺、印空寺、金福寺、長徳寺、恵光寺、洞谷寺、宝菩提院、慶昌院、誓弘寺、蟹満寺、東明寺、乗蓮寺、迎接寺、蓮華寺、万休院、宋雲寺、如意寺、西方寺、常在寺、甲山寺、康雲寺、宝勝寺、東岳寺、宝殊寺、妙谷寺、永徳寺、妙長寺、海林寺、遍照寺、不動院、海蔵寺、安養寺、極楽寺、妙久寺、長円寺、円頓寺、長明寺、本願寺、延命寺、浄香庵、西雲寺、宝樹寺、浄土院、護念寺、清和院、新縁寺、灯明寺、三会寺、大幸寺、善正寺、大報恩寺、西方尼寺、欣浄寺、新道寺、法光寺、如意寺、甘露寺、竜心寺、竜福寺、善入寺、東寓寺、東月寺、祥雲寺、大虚寺、地蔵院、昌福寺、西福院、隆興寺、正歴寺、浄光寺、千手院、宝住寺、了円寺、玄功寺、宝積寺、真福寺、長松寺、宝満寺、興隆寺、竜昌寺、浄泉寺、高台寺、瑠璃寺、楞厳寺、安楽寺、惣持寺、高源寺、天王寺、縁城寺、笛原寺、常立寺、金徳寺、相光寺、林香寺、少林寺、常泉寺、菖蒲寺、慶徳院、禅定寺、渓禅寺、霞谷院、蓮光寺、十方院、意泉院、慶善寺、西方寺、明善寺、誕生寺、極楽院、仏現寺、照円寺、西福寺、浄宗寺、亀竜院、愛染院、住心院、高野山京都堀川別院、般舟院、本光寺、浄福寺、長徳寺、正念寺、澄江寺、安養寺、法光寺、等観寺、松林寺、昌福寺、長遠寺、善福寺、了信寺、徳雲寺、長徳院、報土寺、西正寺、金泉寺、回向院、万松寺、竹林寺、選仏寺、導故寺、十如寺、光清寺、玉蔵院、霊洞院、万寿寺、西向寺、西方寺、大原野寺、常念寺、念仏寺、成就院、光沢寺、常禅院、法皇寺、正因庵、永観堂、智福院、松覚院、明照寺、西福寺、南禅寺、高徳院、南陽院、金地院、天授庵、啼雲院、聴松院、真乗院、正的院、慈氏院、赤山院、林丘寺、禅華院、西円寺、称明寺、不動院、円光寺、隣好庵、竹林寺、栖賢寺、三明院、宝憧院、妙円寺、涌泉寺、帰命院、導入寺、専念寺、自性寺、法音寺、金閣寺、西徳寺、真如寺、等持院、功運院、金台寺、念仏寺、東光寺、教円寺、日観堂、地蔵院、常修寺、竜光院、大光院、雲林院、竜翔寺、孤蓬庵、総覚院、興臨寺、大徳寺、大仙院、真珠庵、竜泉庵、芳春院、三玄院、正受院、瑞峯院、大慈院、竜源院、黄梅院、養徳院、聚光院、高桐院、玉林院、洞谷寺、寿仏寺、常照寺、円成寺、源光庵、金運寺、光悦寺、吟松寺、遣迎院、妙晃院、神光院、西方寺、正伝寺、一様寺、帰命院、月輪寺、聖徳寺、光林寺、成道院、妙厳院、法雲寺、西方寺、法宣寺、正法寺、西往寺、即現寺、光縁寺、法善寺、善立寺、常徳寺、蓮沢寺、養泉寺、延仁寺、即成寺、

徳善寺、正林寺、法徳教会、光専寺、信楽寺、常念寺、法光寺、光照寺、瑞蓮寺、真蓮寺、円竜寺、新道寺、浄楽寺、随専寺、正善寺、十条教会、教円寺、乗誓寺、光徳寺、円徳寺、永念寺、東光寺、閉唱寺、法寿寺、長安寺、唯勝寺、歓喜教会、西宗寺、願教寺、養蓮寺、光久寺、法順寺、憶念寺、仏願寺、浄真寺、善永寺、善久寺、正因寺、即現寺、大念寺、徳正寺、長覚寺、光円寺、宝蓮寺、朱雀坊、聖徳寺

一千円　地蔵院、清賢院、林幽寺
二十万七千円　右京区洛西仏教会
十二万九千円　亀岡西亀岡市仏教会
十一万六千円　福知山市仏教会
四万九千円　室町出雲路組
四万八千円　月の輪組
四万六千円　立誠組
四万四千円　船井郡園部町仏教会
四万円　錦林第二組
二万八千円　天田郡夜久野町仏教会
二万六千円　天田郡三和町仏教会
二万二千円　相楽郡和束町仏教会
二万円　曽我部町地区亀円市仏教会、泉涌寺組
一万九千円　与謝郡加悦谷仏教会
一万四千円　栗田組
一万二千四百円　北区待鳳組
六千円　正親組
五千円　北桑田郡美山町仏教会

二千六百一円　西賀茂組
二千円　換骨堂内井上光道、米田信礼
一千三百円　花背地蔵院婦人会

【兵庫県仏教会】

二百三十万円　北林泰子
一万円　西方寺、万福寺、真蔵寺、和田寺
一千円　井上久次郎、植田喜代治、前田利一郎、檀野義雄、井上しょう、坂本精一
五千円　阪上光尾
三千円　正木忠、横田隆子、大上松枝、日高貞子、谷田忠蔵、河内一馬、松本洋一、松原久子、玉木健雄、岡田秀太郎、大沢利雄、玉木たき、藤平正子
二千円　安田明子、片井千尋
一千円

【島根県仏教会扱】

十一万四千円　曹洞宗島根県第二宗務所
十万円　島根県仏教会
九万七千円　曹洞宗第一宗務所
八万八千円　妙心寺派山陰西教区
七万円　本願寺山陰教区教務所
五万円　出雲市仏教会、日蓮宗々務所
三万一千円　本願寺派神門組
二万八千円　浄土宗出雲教区
一万九千円　本願寺派鹿足組
一万七千円　本願寺派浜田組、本願寺派益田組
一万六千円　本願寺派千須賀組
一万四千円　本願寺派松江組、真宗本派出雲組
一万三千円　本願寺派飯石南組、真宗本派佐波組
一万二千円　真宗本派温泉津組、石東組、臨済宗南禅寺派
一万一千円　本願寺派福尾組
一万円　本願寺派飯石北組、日蓮本宗一畑寺、臨済宗相国寺派西光院扱
六千円　真宗仏光寺派
二千円　天台宗寺門派、真宗本派飯石南組

【岡山県仏教会扱】

百十万円

【徳島県仏教会扱】

四十万円
五千円　川上マサエ

【香川県仏教会扱】

五十五万円
五万円　八栗寺
三万円　金倉仏光堂、ずゞや株式会社
二万円　岩佐仏喜堂、多田羅仏具店、高松葬儀社、公益社
五千円　増田正
三千円　山内清道、吉武イヨ
二千円　松下道乗、松下清子

【愛媛県仏教会扱】

四十万五千円
三万円　大洲仏教会
一万五千円　丹原町仏教会
一万三千円　吉田町仏教会、小野田章神

【和歌山県仏教会扱】

十五万八千円　西山浄土宗寺院
一万九千円　真宗大谷派寺院
一万六千円　救世観音宗寺院
一万円　臨済宗東福寺派寺院、東明寺

四万二千円　日蓮宗寺院
十二万五千円　高野山真言宗務支所
三万五千円　天台宗寺院
十二万六千円　臨済宗妙心寺派寺院
二十万円　浄土真宗本願寺派寺院
十万円　紀三井寺
四万円　新義真言宗寺院
三万八千円　曹洞宗寺院

【高知県仏教会扱】

二十万円

【福岡県仏教連合会扱】

百五十万円

……

百万円　善光寺、浄土真宗本願寺派、永平寺、知恩院、真宗大谷派立正佼成会
五十万円　愛知妙厳寺、東園寺、長谷寺
百九十六万四千円　京都日蓮門下連合会
百三十万円　孝道山本仏殿

◇掲◇示◇板◇

▼駒沢大・秋重義治教授（九大名誉教授）は十一月十三日心不全のため逝去された。禅の心理学的研究では世界的に有名で、仏教の研究にも熱心であり、仏教文化会議のレギュラーでもあった。

▼顕本法華宗では、宗務総長任期満了であるが、日蓮聖人七百遠忌をひかえ古瀬堅徳宗務総長を再任した。

▼日蓮宗大本山池上本門寺では、七百遠忌報恩事業の御廟所、山門、大客殿の落慶式を十一月四・五日に厳修した。

全仏
第３種郵便物認可
昭和54年12月１日

宗教法人の施設について

幼稚園、保育所問題を訴える

小林龍雄

一九五九年国連において児童権利宣言が採択されてから二十年を経た本年、国際児童年として児童をとりまく現代の諸状況についてはたしてその精神が生かされているか、あらたな見直しがはじめられています。

この頃の新聞は子どもの自殺、親の子ごろし、はては、小学生による殺人事件迄報道し、読む者をして戦慄させています。いうまでもなく、教育における宗教の欠如が、大変に心配される形であらわれています。

幼稚園、保育所等の普及は戦後めざましく発展しました。特に仏教寺院による保育施設の拡充は急速な進展を見たわけであります。

仏教民衆化への役割

寺院関係を持たないキリスト教が、布教伝道の有力な手段として幼稚園等を通して、家庭への接触をはかり、キリスト教思想の普及に効果をあげたと同様、仏教主義に基く幼児施設が仏教の民衆化へ果した役割は多大なものがありました。幼児期における宗教情報教育の必要性は言う迄もないところでありますが、仏教主義に基く、幼稚園、保育所、養護施設等が、仏教保育推進に努力をつづけてきた意義は大きいものと存じます。

ご承知のように戦後宗教法人法が制定されましたが、これらの施設は宗教法人の行う公益事業として位置づけられてきたものであります。つまり宗教法人そのものが設置体となって公益事業を推進することが望ましいとの見解の中で、宗教法人立の施設が作られてきたわけです。

補助金停止の心配

しかしながら幼児教育の普及充実によって就園率が増加するに伴い、国や地方公共団体も当面する幼児教育問題を放置することができず、又強い住民の要望の中から公費補助がはかられるようになり、幼稚園に於ては私学振興助成法が成立して経常費補助の道が拓けてきました。

このことは、国や地方公共団体が、幼児教育の重要性にめざめ、又保護者の経費負担軽減をはかる為の処置として歓迎されるところではありますが、一方設置体を幼稚園にあっては宗教法人から学校法人へ、保育所にあっては社会福祉法人へきりかえさせる指導が年々に強化され設置体を変えなければ補助金の支出は停止される状態に立ちいたっています。

宗教法人に豊かな経済的基盤があった場合、宗教法人の設置体での運営は可能でありますが、全国にある全ての幼稚園や保育所が宗教法人の独立した財源のみで、できる施設はきわめて少く、又、公費助成の増大が保育内容への干渉となってあらわれることは当然予想されます。

全仏教の問題

特にすべての財源を公費によってまかなっている保育所にあっては社会福祉法人化しなければ、施設改善もできぬ状態となり、宗教教育の存在ともかかわって重大な問題になっています。

宗教法人の行う主たる公益事業として幼稚園、保育所等があげられるわけでありますが、今や宗教法人ではこのような公益事業は行なえない状態に追いこまれているのが現実です。現代の世相から仏教に基く宗教教育はもっともっと強化されなければならないのです。これは、幼児施設を作っている寺院のみの問題でなく、全仏教の問題であると存じます。

あり方の再検討

学法化、又は社福化するたびに、宗教法人の財産は、あらたな法人に帰属され著しく宗教法人の力を弱めています。弱まった時点で、宗教教育が影を失うことにでもなれば、折角、幼児を通して家庭に浸透してきた仏教の教えも衰退せざるを得ないのです。

結成以来五十年の歴史をもつ日本仏教保育協会は、神道、キリスト教にも呼びかけて、宗教法人の擁護を守るために努力しておりますが、全仏教、全宗教の問題としてとりあげていただかない限り、問題解決をはかることは、きわめて困難であります。

宗教法人法に基く公益事業として、幼稚園、保育所のあり方を再検討し、その経済的基盤の安定と、宗教的情操教育の確保のため、仏教関係者各位の深い御支援を願いたいのであります。

寺院用具
浅草通り五鳳会加盟店
株式会社 浜田商店
東京都台東区寿２－10－９（地下鉄田原町駅前）
電話 代表（841）４９６５

全仏
第3種郵便物認可

日華仏教文化交流開かる

——東京、岐阜、京都で——

中華民国台湾の仏教徒との親善交流を深めるため結成された日華仏教文化交流協会（梶浦逸外会長）は、十一月七日より東京、岐阜、京都において日華仏教文化交流日本大会を開催、台湾より僧俗百五十名が来日した。

十一月七日は、東京・赤坂のホテルニュージャパンにおいて「広げよう仏教の輪を若人に」のテーマで日本大会の開会式が行なわれ、梶浦会長と釈白聖会長がそれぞれ主催団体を代表して挨拶「両国の仏教を通じて固い友好を確立し、より仏教興隆に貢献しましょう」と述べた。

このあと後援の全仏と亜東関係協会の代表等が祝辞を述べ、記念品の交換などがあって開会式を終了した。

午後からは、東北福祉大・後藤秀弘学長の記念講演と、分科会が開かれた。

翌日からは各山を参拝、十日には梶浦会長自坊の岐阜県美濃加茂市・正眼寺の〝正眼寺の集い〟に参加、十一日には京都・妙心寺花園会館において閉会式を行ない千坂花園会本部長が歓迎の挨拶を述べ、両国それぞれより記念品が贈られた。最後に「われわれ日華両国の仏教徒は三宝のもとに責務を自覚し、より一層の友情の絆を強めるため全力を傾倒する」という宣言と、〝両国の仏教教学の振興に鋭意努力する〟などの決議文を発表し、すべての日程を終了した。

再録板

宗教は人生にとって大切であるか……

総理府の「世界青年意識調査」によれば、宗教は人生にとって大切であるかという質問に対して、日本、イギリス、西ドイツなどが非常に低い結果となっており、インド、フィリピンなどの宗教意識が高い。

フィリピンでは、やや大切が十三%、非常に大切が八十三%で九十六%と非常に宗教を大切にしている。またアメリカやブラジル、インドなども八十%を超える意識をもっており、信仰心の高さがうかがえる。

一方、西ドイツやイギリスは三十%低く、特に非常に大切であるという項では七%、九%という低さである。

さて日本はどうか。やや大切が三十一%、非常に大切が十%で、国民の四割しか宗教を大切と感じていないわけで、現代青年の意識をあらわしている。

フンガーライダー

教授夫妻が来局

オーストリア仏教協会会長ブリッツ・フンガーライダー教授夫妻が、十月二十二日全仏事務総局を訪れ、加藤総務局長らと懇談した。

教授の今回の来日は国際交流基金の招きによるもので、仏教関係資料の収集が主要な目的である。教授は加藤局長の質問に答えて、初めての中国訪問以来、仏教を発見するまでの長い精神遍歴や、ヨーロッパにおける今日の宗教事情、また日本の俳句への深い関心等を熱をこめて語った。この後、席をソートービルの微笑庵に移し、仏教の展望などについて熱心に意見の交換を行なった。

フンガーライダー教授はオーストリア人で五十八歳、一九三八年に中国留学、一九六一年には日本を訪れている。ヨーロッパの主要な仏教指導者として知られ一年の大半を仏教関係の講演旅行のために費しているという。オーストリア仏教協会の会長であると同時に、ヨーロッパ仏教連合の会長でもある。著書に、「菩薩」、「仏教徒とキリスト教徒の対話」「日本の禅」等がある。

全仏ロビー

師走の風におもわずコートの襟をたてたくなるような十二月、朝の本堂の冷たさ、外ではエリマキがはしくなる。

さて各宗派とも法要のとき帽子、護襟など（俗に襟巻）を使用するが、これは随の煬帝が厳寒のとき天台大師に、縹袖を解いて頭をつつむ故事にならって、桓武天皇が伝教大師におくったといわれるもので、現在は羽二重の白で袷仕立になっている。「なぜ輪になっているの」と言われるが、袖を切った型で説明もできる。

エリマキ

特に天台宗系では帽子といって頭をつつむ特徴がみられる。しかしこの被り方は座主と探題職に許されるものであり、他は頚にかける。

真言系でも頚にかけるが、帽子と平帽子の区別があるようである。禅宗系あるいは浄土、日蓮系などにおいても領帽とか護襟と呼び頚にかけて使用している。浄土においては使用期間が定められているようである。禅系、日蓮系の帽子は完全なかぶりものである。

全仏この一年

〝ルンビニーの年〟として幕をあけたこの一年は、WFB大会の事後整理や通常事務、諸問題で多忙をきわめた。一年を振返り来るべき八十年代を迎えたい。

ルンビニー　WFB本部より一ドル募金アピールが行なわれ、全仏においても復興に協力すべく調査・検討し、茨城大会でも「復興に協力し、この運動を強力に展開しよう」と採択された。

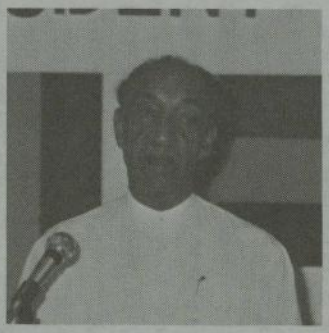
WFB関係　WFB日本大会は関係各方面との事後処理や事務整理ののち、二月九日実行委員会を解散、残務整理を全仏事務総局に引き継いだ。

実行委解散で挨拶する桜井委員長

また同大会の答礼のため、大谷会長を団長に仏教訪問団を十月二十二日より五日間派遣し、WFB本部を訪問、タイ国仏教徒との交流を深めた。

なお、同大会で活躍した仏教英語研究会は、関係者の努力により五月に再発足し活動している。

スリランカ　同国ジャヤワルダナ大統領が国賓として来日、十月十三日に増上寺を参拝、また全仏主催にて歓迎会を盛大に行った。


スリランカ大統領

また同国を襲った大型台風被害救援のため、一月～三月に救援募金を行ない、同国仏教会に寄託した。

茨城大会　第二十六回全日本仏教徒会議茨城大会は、十月十五日水戸市民会館において開催され、提出された諸議案について熱心に討議され、宣言決議文が発表された。

盛大だった茨城大会

県仏の動き　各県仏それぞれに活動を行なっているが、埼玉県仏教会が第二回大会、長野県仏教会が第二十五回仏教徒大会を盛大に開催。大阪府仏教会は三十周年記念大会を催した。また栃木県仏教会も仏教文化講演会を開催し盛況であった。一方、鳴門市仏教会と長岡市仏教会がWFB地方大会が縁で姉妹仏教会として手を結び、お互いに交流することとなった。

諸団体の動き　諸団体も活発な運動を展開した。全日仏青は新理事長に永倉師を選出し、組織拡充や海外交流へむけ努力しており、全日仏婦も第二十六回全国大会を開催した。仏教伝道協会では仏教聖典の寄贈運動を展開し韓国等に寄贈した。また仏教鑽仰会は花まつりなど盛大に行っている。

諸問題検討　一般消費税導入の問題、幼稚園法人化問題、同和問題などについて、これらの問題に対する対応の方策などを慎重に検討した。

文化関係　日本仏教文化会議は第十二回目をむかえ、孝道教団との共催により九月二十九日「エネルギーとは何か」をテーマに開催され、招請諸先生により熱心に討議された。

仏教徒のつどいは、十二月二日に釈尊のおさとりを祝い講演・映画・インド舞踊を行なった。

全仏誌は、発刊以来足かけ二十五年、担当者それぞれの努力により七月号をもって二百五十号となった。

事務所移転　全仏の事務所が住みなれた浅草より芝に移転。増上寺大殿裏の元三康会館の建物に移り四月より事務をとりはじめた。

あいついで遷化　今年は全仏元会長、各宗管長等の遷化があいつぎ、三月七日には岩本勝俊師、七月十五日には山田霊林師、八月八日に清水谷恭順師、八月二十五日に朝比奈宗源師、十一月三日には岸信宏師が亡くなられた。また元全仏事務総長の黒田白純師も二月四日に遷化。

大阪府仏の三十周年大会

盛大に十周年記念

国際仏教興隆協会

国際仏教興隆協会（巌谷勝雄理事長）は、インドに日本寺建設の推進母体として財団法人の認可を得て発足、ことし十周年をむかえた。

その記念式典と祝賀会が、十一月十二日午後三時より東京グランドホテルにおいて開かれた。同会の門屋組織局長の司会ですすめられ、発起人を代表して杉谷義周師が挨拶、インド大使や来賓諸師が「困難をのりこえての事業に一層努力してほしい」・「聖地への関心がより強まっている」などと祝辞を述べ、最後に巌谷理事長が「今後ともご協力、ご支援をいただきたい」と謝辞をおこない祝宴に入り盛会であった。

盛大に開かれた十周年式典

全日仏婦、26回大会

名栗渓谷の鳥居観音で

全日本仏教婦人連盟では、十一月八日九日の両日、紅葉の美しい埼玉県名栗渓谷の鳥居観音において第二十六回全日本仏教婦人連盟大会を開催した。

法要が鳥居観音・尾尻天外住職の導師により本堂で営なまれたあと、会場を名栗観世音センターに移し開会された。

四弘誓願のあと主催者を代表して山本杉理事長が挨拶、来賓として全仏・安藤義祐次長等が挨拶し、諸報告があった。

翌日は午前中に座禅修行や境内諸堂参拝が行なわれた。

昼食後は、記念講演が「酒」編集長の佐々木久子女史によって行なわれ、座談会のあと、新役員の紹介や自己紹介などがあり、盛況裡に終了した。

和宗四天王寺で奥殿落慶

聖徳太子讃え、各宗参集

和宗・四天王寺（出口常順管長）では戦災で焼失した聖徳太子奥殿を復興、その落慶法要を十月の十三日より十日間にわたって厳修した。特に落慶法要は各宗の管長、本山貫主等がそれぞれ親修するなど特色ある落慶式であった。

初日の十三日は、高松宮殿下をお迎えして、四天王寺一山により奥殿入仏開眼大供養が行なわれ、十四日から二十一日までは、天台宗（山田座主）、孝道教団（岡野統理）、浄土宗（佐藤副門跡）、犬鳴派（東条管長）、融通念仏宗（田代法主）、華厳宗（清水管長）、聖徳宗（間中管長）、曹洞宗（乙川管長）、念法真教（稲山部長）、日蓮宗（金子貫首）本願寺派（大谷門主）、高野山真言宗（高峰管長）等の法要が各宗の伝統によって営なまれた。二十二日は結願法要が四天王寺一山により厳修されたが、連日熱心な信者で賑わう盛儀であった。

上野管長が晋山

智山派智積院

真言宗智山派管長、総本山智積院第六十三世化主になられた上野頼栄猊下の晋山式が、十月十九日智積院金堂に真言各山管長、総長、檀信徒など五百名が参列するなかで執行された。

式は、尊供、理趣経、回向の法楽を修したあと、上野新化主は御宝前にすすみ「宗祖大師一千百五十年御遠忌に総力を結集し、一意専心任務を遂行する」と伝統奉告文を読みあげた。

次いで川田聖見豊山派管長が真言各山を代表して、また全仏の代表として中里徳海天台宗々務総長（全仏常務理事）が祝辞を述べ、別所弘因智山派宗務総長の謝辞により式を終了した。

仏英研にご協力を！

仏教英語研究会（花山勝友理事長）がWFB大会関係者の努力により再発足し毎週一回、新宿の常円寺を会場に研究会を開いている。

同会ではご協力、ご支援下さる賛助会員になっていただきたいとお願いをしておりますので、左記にお問合せ下さい。

（仏教英語研究会事務所＝東京都新宿区新小川町三ノ十七牛込グレースマンション五〇一号室、事務局長・山田一真）

二月十一日にスピーチコンテスト開催予定。また研究会員も募集しています。

哀悼

岸信宏師（元全仏会長、浄土宗門主総本山知恩院門跡）

十一月三日、老衰のため遷化。九十一歳。本葬は十二月二日知恩院で執行。

浄土宗立宗教大学（現大正大）卒業後得生寺住職、仏教大学教授。昭和二十三年知恩院門跡に就任。昭和三十六年初代門主。また全日本仏教会の会長を昭和四十年～四十一年、昭和四十八年～九年の二期つとめられた。

事務総局録事（十一月）

一日　局内会議
六日　財務部長会議（東京）
七日　日華仏教文化交流日本大会
八日　全日仏婦大会出席
九日　財務部長会議（京都）
十二日　宗務総長会議
　　常務理事会
　　興隆協会十周年式典出席
二十七日　常務理事会
二十八日　組織専門委員会

昭和五十四年十二月一日発行
十二月号　第二五四号
発行人　鱗渕正治
編集人　安本利正
発行所　財団法人　全日本仏教会
東京都港区芝公園四―七―十三
電話〇三（四三七）九二七五